



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

発行：(公財)対馬丸記念会

発行人：高良 政勝

編集：対馬丸記念会事務局

Tsushima maru press

平成 28 年 12 月 25 日発行 第 33 号

犠牲者漂着現場、奄美大島・宇検村 船越海岸に 対馬丸慰霊碑来春竣工!!



対馬丸通信31号で、宇根一磨学芸員より報告があった、鹿児島県大島郡宇検村に、対馬丸慰霊碑を建立することが同村議会の承認を得て正式決定。現在基礎工事が進んでいます。

同慰霊碑は、対馬丸犠牲者が多数漂着した同村船越（フノシ）海岸に建立されます。72年前、同地に流れ着いた犠牲者が、当時の村民有志によって丁寧な埋葬されました。後にその情報を伝え聞いた、遺族が同地を訪れ改葬のため遺骨を引取って行ったことをふまえ、当時のことを忘れず、今後再び子供たちが犠牲にならないように恒久平和の願いを込めて建立されます。

慰霊碑は東シナ海を背に、参拝者が悪石島の方向に向かって拝礼できるように設置され、碑文は右記のように記されます。

太平洋戦争終戦の一年前、昭和十九年八月二十二日午後十時過ぎ、沖繩から学童・一般疎開者を乗せて長崎へ向かっていた「対馬丸（つしま丸）」が悪石島付近で、米国潜水艦ボーフィン号によって撃沈されました。犠牲者およそ千五百人、そのうち学童七百八十人余、就学前の幼児も合わせると千人余りの幼き命が一瞬にして奪われました。

当時、ここフノシ海岸や枝手久島をはじめ周辺一帯には多くの遺体が漂着しました。あまりの無残さにとっても正気では埋葬できず焼酎を煽り、感覚を麻痺させながら浜に横穴を掘るなどして、村民が手厚く埋葬しました。一方、二十一名の生存者は、一週間の漂流の末宇検村や近隣町村に漂着し、村民の必死の救出作業と手厚い介護を受け、尊い命が救われました。

戦後しばらくして、百五体の遺骨は沖繩から訪れた遺族によって故郷へと帰り、改葬されました。

このことは、長きに亘り語られてきませんでした。当時、埋葬・救助活動に当たった村民の多くは亡くなりましたが、戦争の愚かさを語り伝え、先人たちの温情とご苦労を偲び、後世へ伝えるべくこの地に碑を建立します。犠牲者の御霊の安らかならんことを願い、恒久平和と奄美・沖繩の絆を記します。

特別展を通して

奄美大島と対馬丸の縁をつないで……

命と向き合う場

対馬丸記念館学芸員 慶田盛とつき

今年の夏の特別展は「奄美大島

と対馬丸—いのちと魂を受け止め
た島と対馬丸の縁(えにし)をた
どる—」と題し開催した。奄美大
島は、沖縄本島から北東へ飛行機
で約一時間、宮古島とほぼ同じ距
離間に位置し、裏声を巧みに使っ
た哀愁ある島唄や八月踊りなど
は有名で、独特で豊かな文化を持
つ。また、標高694mを誇る最
高峰の湯湾岳には、アマミノクロ
ウサギやオーストンオオアカゲヘ
ゴなど数多くの貴重な固有種も生
息し、原始的な森の息づく自然豊

かな島である。

今から七十二年前の一九四四年
八月二十二日、疎開のために九州
へ向かっていた対馬丸が悪石島沖
で米潜水艦の攻撃を受け撃沈、お
よそ一週間後、奄美大島の南西部
にあたる大和村・宇検村・実久村
(現瀬戸内町)の海岸線に、多く
の犠牲者の遺体と数少ない生存者
が流れ着いた。そこで、当時、生
存者を保護し集会所などで手厚い
救護を行ったり、遺体を集めて丁
重に埋葬し吊った村民の様子、戦
後、沖縄からの遺族団による収骨・
改葬の様子や、生存者と救助者の
再会の様子などについて、新聞記
事・書籍などに残された証言や生
存者の描いた絵、写真などを中心
に辿る展示となった。因みに、平
良啓子さんや上原清さんも、奄美
大島で救われた命で、対馬丸事件
を子どもたちへ伝える語り部活動
を続けている。

本展示会の開催にあたり、改
めて調査・資料収集を進める中
で、奄美大島に関連する書籍等記

録資料はとてもなく、当時直接

携わった方々の多くはすでに他界

された、証言を得ることが非常に困

難な状況だった。また、その状況

を見た・聞いたなどという間接的

情報も含め、これらは個々の記憶

の中にとどまり、全体的に形とし
て捉えるには情報・資料が少ない
ということがあった。当時、奄美
大島は陸海軍基地がおかれ要塞化
されており、助けた側にも箝口令
がしかれたことも、のちに伝承の
妨げとなっている。そんな中で集
まった資料をもとに、助けられた
側と助けた側の両方の証言を一同
に展示することで、その当時の出
来事だけでなく「想い」も含め、

より克明
に、多角
的視点で
伝える内
容となっ
た。(こ
れまであ
まり知ら
れること
のなかつ
た、奄美
大島と対
馬丸の関
係をより
深く伝え
ることが

できたと思う。) たくさんさんの遺体が流れ着く状況
の中、ある村では埋葬の際、長老
が「沖縄の人々は仏様をとて大
切にするから、いずれ必ず遺骨を
引き取りに来るはず。」と助言し、
穴を掘り直し一体一体山手の方へ
頭を向けて埋葬した、という証言
がある。遺体と共に流れ着いた遺
品も浜辺で拾い集めた、という証
言もある。そして、墓標を立て、
身元に分かるものは名前を書き残
すなどして丁重に吊った。ある地
域では、沖縄から遺骨を引き取り
に来るまで、毎年お盆にはお墓参
りをして御霊を慰めていた、とい
う証言などもある。これら証言を



「命・生」あるものとして向き合っている姿を感じる。埋葬された遺体は、戦後わずかな一九五〇年十一月、遺族団に伴われて故郷・沖繩へ帰ることができた。この年、奄美への収骨がきっかけとなり、初めて遺族が集まり慰霊祭が舉行され、遺族会が組織的に活動を始めることとなる。

開催期間中は、子どもから年配の方々まで、県内外から二千人余りの来館者が訪れ、遺族・関係者からの問い合わせ等情報の集まる貴重な機会になった。来館者からは、「救助した側とされた側の両方の証言を見ることができてよかった」「生々しい証言だった。読む中で辛いと感じることもあったが、この事実から目をそむけてはいけないと感じた」「当時の奄美大島の方々に心から感謝したい」「事件としてだけでなく、子ども一人ひとりの人間の問題として考えさせられる」など様々な声を頂き、人が命に向き合う姿を感じ、「命・生」について考える機会になったと感じる。今回展示した証言の中には、つい目を背けたくなるような記述もある。これら証言をどう展示するか悩み、検討を重ねた。遺族の方々の心情や犠牲者のことを考えると、正直なところ今も展示した内容に不安はあ

る。しかし、そのような状況を見ていた方たちがいて、丁寧に埋葬し弔ってきた方々がいること、そして戦争とはこういうことなんだということを伝えることも、真実を考える。

今回、奄美大島の宇検村から村長さんも来場され、熱心に見学された。そして、来年三月には宇検村に対馬丸犠牲者の慰霊碑が建立され、同時により多くの方々に知ってもらうため展示会も予定されている。戦後七十二年をへた今、慰霊碑が建立されることの意味は大きい。未来を担う子どもたちへ何を伝え継いでいくのか、今を生きる人々が平和をつくる努力を続けること、その平和の道しるべとして、悪石島の慰霊碑と共に大きな役割を担っていく心強い存在ができる。



元田宇検村村長も視察に訪れました



上段左 高良政勝理事長、上段中 城間幹子那覇市長、上段右 平和の誓いを宣言する花岡光つしま丸児童合唱団リーダー、中段右 池辺晋一郎氏が指揮する海のトランペットを歌う沖繩合唱団(神戸市役所センター合唱団他)



平成28年度 対馬丸慰霊祭

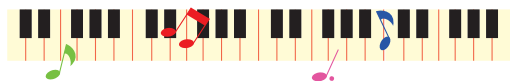
とき..平成28年8月22日 ところ..小桜の塔

対馬丸が撃沈されてから72年、今年も遺族、来賓等関係者四百余人余が御霊へ哀悼を捧げました。来賓の城間幹子那覇市長、宮城篤正沖繩県遺族連合会長による弔辞をはじめ、つしま丸児童合唱団が献歌と平和の誓いの群読、海のトランペットを歌う沖繩合唱団の献歌があり、大城安弘首里城下にチョウを翔ばそう会長によるオオゴマダラを放蝶する「蝶奉納の儀」が行われました。





つしま丸児童合唱団便り



無事大任果たす!!

平成28年沖縄全戦没者追悼式
沖縄県平和祈念公園

慰霊の日の6月23日に沖縄県主催、平成28年沖縄全戦没者追悼式において、つしま丸児童合唱団が、献花式の式典合唱団として参加しました。「ねがい」と「大切なふるさと」「ビリーブ」「平和を我らに」の5曲を全戦没者のみ靈へ捧げました。



来館・視察

- 平成28年4月10日
元田信有宇検村長（鹿児島県大島郡）慰霊碑建立調整
- 5月28日
松井一郎大阪府知事
- 6月22日
堀江裕厚生労働省大臣官房審議官（社会・援護・人道調査担当）
- 6月29日
菊池隆一内閣府沖縄振興局調査官（特定事業担当）
- 平成28年8月30日
鶴保庸介内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策・クールジャパン戦略・知的財産戦略・科学技術政策・宇宙政策・ＩＴ政策担当）
- 9月9日
渡辺晶内閣府大臣官房審議官
- 9月12日
武川光夫内閣府審議官
- 9月14日
西川正郎内閣府事務次官
- 9月26日
水木圭祐内閣府特定事業担当参事官

イベント・行事

- 平成28年4月23日
小桜の塔鯉のぼり掲揚式
今年も小桜の塔において、つしま丸児童合唱団が、



ま丸児童合唱団によって、鯉のぼりが掲揚されました。合わせて記念館エントランス広場にも大きな真鯉と緋鯉に吹き流しが掲揚されました。

- 5月28日
平成28年度つしま丸児童合唱団結団式
新入団員7人、今年度団員は男子9人、女子18人の総勢27人で活動中です。
- 6月23日
平和の詩朗読会2016
恒例となった那覇青少年舞台プログラムによる、慰霊の日イベントがエントランス広場で開催されました。
- 6月23日
記念館映像ライブラリー収集映像特別上映会

慰霊の日来館者に向けて収集映像を上映。訪れた親子連れを中心に平和への思いを共有できた有意義な上映会となりました。

- 8月22日
平成28年度対馬丸慰霊祭（4頁記事参照）
- 8月22日～10月10日
第26回特別企画展「奄美大島と対馬丸」ーいのちと魂を受け止めた島と対馬丸の縁をたどるー（3頁記事参照）
- 11月19日
第29回チャージャーがんじゅう講座「舞台朗読で知る 対馬丸」



▲石井順子さん ▼真栄里勝枝さん



朗読可否の会より、真栄里勝枝さん、石井順子さんのお二人をお迎えして、辻仁成作「代筆屋」（朗読石井順子）、大城立裕作「対馬丸」（朗読真栄里勝枝）朗読会を開催しました。

トピックス

- 5月11日
平成28年度第1回那覇市内全小中学校平和教育担当者研修会

□ 8月4日
平成28年度第2回那覇市内全小中学校平和教育担当者研修会

平成25年度より恒例となつてい
る、那覇市教育委員会との共催に



見した、遠隔操作調査船ドルフイ
ン3Kの模型が当館に寄託展示さ
れました。展示に合わせ海底調査
映像も同時に見ることが出来るよ
うに展示の一部変更を行いました。



□ 平成28年6月23日
平成28年沖繩全戦没者追悼式

つしま丸児童合唱団が、同式典
の追悼献花式において平和の歌声
を響かせました。子ども達は幾分
緊張したものの、無事大役をこな
し晴れやかな笑顔を見せていまし
た。5頁記事参照

□ 5月25日

平成28年度第1回対馬丸平和祈念
事業協議会幹事会

□ 6月29日

平成28年度第2回対馬丸平和祈念
事業協議会幹事会

□ 8月3日

平成28年度第1回対馬丸平和祈念
事業協議会

今年度から始まった、内閣府の
対馬丸平和記念事業協議会の幹事
会が5月と6月に行われました。

前号で既報の通り、内閣府・沖
縄県・記念館の三者で入館者増な
どの喫緊の課題について、連携し
て課題解決に取り組むことを目的
に会議を重ねて問題点をあぶり出
し、8月に本会議を開催いたしま
した。全て記念館においての会議
でしたが、来年1月には東京で本
会議がもう一度開催され成果を確
認する予定です。

□ 10月19日

平成28年度平和学習推進連携委員会
今年度の外部委員に新しく那覇
市教育委員会池原鉄指導主事と、
那覇中学校の富山仁志教諭が新任
され、他の委員は再任で委員会が
開かれました。平成27年度の学校
現場との連携の総括が報告され、
その後28年度の事業計画が審議さ
れました。

□ 11月2日

平成28年度運営委員会
次年度の特別展等を話し合う運
営委員会が開催されました。

寄贈・寄託

□ 5月11日

奥田多太行さんから、対馬丸生
存者の救助にあたった、奥田一雄
さんの船員手帳2冊を寄贈いただ
きました。

□ 6月20日

安原和巳さんから、対馬丸船員
で生存者の故安原秀典さんが詠ん
だ、右記の短歌他一首を寄贈いた
だきました。

ご寄附

たから齒科様

高良政勝院長(当財団理事長)

ご令室の高良ミチ子様(6月10日
にご逝去なされました。財団設立
時の評議員として、記念館運営
について気にかけていただいてお
り、その意志を継いでご遺族様よ
り香典返しとして、百万円が寄附
されました。謹んで故人のご冥福
をお祈りいたします。

□ 平成7月29日

沖繩尚学高等学校生徒会様

同校生徒会主催のチャリティー
イベント「ピース ミュージック
コンサート」の収益金を頂戴いた
しました。

□ 8月22日

高良政勝理事長
慰霊祭にあたり、記念館運営の
補助として寄付。

以上大口の寄付者

□ 平成28年2月22日、11月27日

酒光章夫、辻誠一、青木忠、當銘
末子、詩吟朗読錦城会、湧川秀子、
渡名喜元嗣、畠山俊樹子、柴田一

郎、菅沼芳子、玉那覇有健、金城
節子、外間邦子、大森節子、平良
啓子、中田昌宏、早乙女良一、田
村芳記、宮平のり子、賀数憲一、
高橋めぐみ、中山和子、土肥義胤、
小山誠、小松崎文子、大庭妙子、
渡口眞常、當間嗣朝、嘉数昇明、
宮城都志子、大城清昭、比嘉元子、
比嘉ヨシエ、社団法人イエス団京
都ブロック会、高橋範子、真喜志
康一郎、宮城玲子、藤田美枝子、
琉球手まり保存会、泊先寛顕彰会、
ぶどうの木保育園、安藤和枝、田
中チャンドラークマール、黒潮和
美、(一財)兵庫県遺族会、椰木
勝義、山口響子、渡名喜よし子、
屋比久嘉光、名城郁子、本村ツル
西林弘子、(株)泉設計、松木路
子、又吉康男、神戸市役所センター
合唱団、慰霊祭寄付金、我喜屋敏
子、山口徹、比嘉いずみ、上村義
子、甲斐真由美、大月蕙太、高橋
ミエ子、大山日出男、金城衣里乃、
仲間初子、仲田行克、照屋寛、藤
原敏次、高野敏子、釜野光子、古
波津美津子、佐藤勝子、玉利和代、
新里敏子、神奈川県立城郷高等学
校、なしろみつこ、又吉キク、石
神幸郎、大慧會教団、松村一夫、
館内募金箱、沖繩の雲へ沖繩公演
実行委員会様、以上の方々より寄
付を頂戴いたしました。心より感
謝申し上げます。